

旅する工具屋



第八話：リヒテンシュタインを経てハイジの家へ

欧州駐在中，ドイツに住んでいた事もあって車での移動距離は日本にいた頃と比べてだいぶ長かった様に思います．会社への通勤も車で20km，少しアウトバーンも走行します．そしてドイツ国内～近隣国への出張であれば自分の車で行く事も少なくありません．北西部に住んでおり，ドライブ好きな私にとって南ドイツへの出張は片道600kmの運転を楽しめるおまけ付きの様なものでした．

欧州の夏は陽が長く，最長で夜11時前くらいまで仄明るい日が訪れます．そんな中1週間の南ドイツ出張が決まった時，もう少しだけ足を延ばして週末を楽しむ事にしました．金曜日の仕事をゲッピンゲンで終えた私は，スタッフに別れを告げたあと自宅へ向かわず進路を南へ．途中ガソリンスタンドで近隣国の高速道路使用料金を払ってステッカーを貼り，さらに南下を進めました．

オーストリアに入国した後すぐに西へ進むとそこはもうスイス．緑深い山々を横目に気持ち良くチューリッヒの方へ…は行かず再び南へ．そこには25×5km程度の面積しかない小さな国，リヒテンシュタイン公国があるのです．

午後7時過ぎ，首都ファドゥーツのホテルに車を置き，まだたっぷりある日照時間を利用して夕食を兼ねた街というか国の探索へ．まずは観光局に行き，入国記念スタンプをパスポートに捺してもらいました．

夕食を簡単にピザで済ませた後はハイキング．入る事はできませんが，国王の住居を兼ねているファドゥーツ城を見に行きました．間違って民家の庭に入ってしまう，住人に会った時には怒られるかと思いましたが，城を目指していて間違えたと話すと丁寧に正しい道を教えてくれました．街行く人々の雰囲気からも感じましたが，(パチカンとは別として)ミニ国家は基本的に暖かい雰囲気というか支えあいの気持ちの様なものがあって好きだったりします．



国のサイズに合った小さな城は質素な外観で周りの風景によく馴染んでいました．そこからスイス側を眺めると緑のグラデーションが綺麗な山々を川越しに眺める事ができます．夜9時を過ぎて少しトーンが落ちた空と山を見据え，明日はあの向こうへ行くんだと高鳴る気持ちを抑えてホテルに戻りました．静かな国の静かな部屋で眠る一晩はとても心地良く，時間さえあれば何日でも居たいと思うくらい，気に入ってしまいました．

翌朝は早起きして 6 時前にホテルをチェックアウト。気持ち良い朝焼けを見ながら車に荷物を載せて、再びスイスへ入国(看板だけですが)します。ナビゲーション頼りではありましたが目的地のマイエンフェルトに到着した事は水場を見た瞬間に分かりました。

マイエンフェルトという地名を聞いてピンと来る方は少ないかもしれませんが、そこから 2km ほど移動するとハイジドルフに到着します。「Heidi-dorf」つまりハイジの村、アルプスの少女ハイジの舞台となった場所なのです。



なかなか斜度のキツイ場所に位置するため、ハイジドルフ周辺に観光客向けの建物が纏めて作られています。大体の雰囲気やお土産を買うだけなら十分なのですが、そこにあるのは普通の家(物語中では冬季の借り家)。せっかく自力で来た私としては「あの」ハイジの家を見ないと気がすみません。覚悟を決めて片道 4km 以上の山登りをすることにしました。

その週は欧州全域で異例の猛暑と評される程暑く、朝 7 時過ぎで既に 30℃を超していました。出張ついでの遠征のため登山の準備もなく、水も 500ml ペットボトル 1 本という心許ない出発となりましたが、時間をかけると気温が上がる一方なので、できるだけ「早く & 速く」登る事にしてハイジドルフを後にしました。

ハイジの家があるハイジヒュッテまでは直線的に登る事はできず、山をジグザグに登ります。各折り返しには木彫りの人形が置いてあって、物語に纏わる小話を読む事ができるので楽しみながら…と思いましたが、正直全然それどころではありませんでした。滝のように流れる汗、瞬く間になくなる水、通じなくなる携帯電話、次第に焦りや不安に包まれます。

もう無理かも、引き返そうかと思った矢先、歩き続けてきた森が突如として終わり目の前に草原が広がりました。そしてその先には「あの」ハイジの家があったのです。



到着した私を子犬が手荒く出迎え、その声を聞いた女の子が出てきた時は驚きました。夏は登山客向けの売店になるため、住み込みで働くそうです。金髪美女のハイジ(?)からコーラを買い、美しい山々を眺めながら渴き切った喉を潤しました。

週末をフル活用したこの小旅行はこの上なく充実したものでしたが、通常 4 時間以上かかるところを往復 1 時間 40 分程度でこなした代償として身体の後ろ半分がひどい筋肉痛に見舞われました。お陰で帰路 700km を運転できず、途中のホテルで一泊してそこから月曜の朝直接出社する事に…。帰るまでが旅行なのだとしたら、この旅は反省する所が多いのかもしれませんが。

文：ペンネーム 17chandler